

2021年7月20日

株式会社ファイターズ スポーツ&エンターテイメント
代表取締役社長 川村浩二 様

一般社団法人北海道自然保護協会会長 在田一則
北広島森の倶楽部代表 加藤和子
北広島の自然を考える会代表 三澤英一

HOKKAIDO BALLPARK F VILLAGE に関わる要望書

ご多忙のところを我々自然保護団体との意見交換の機会を設けていただき感謝申し上げます。

ご承知のように、現在 HOKKAIDO BALLPARK F VILLAGE (以下 BP) が建設されているきたひろしま総合運動公園および BP へのアクセス道路(道道きたひろしま総合運動公園線)の南側には国指定特別天然記念物野幌原始林や北広島レクリエーションの森など豊かな森があります。また、北側にはかつて耕作地であったところに発達した2次林があり、さらに護岸工事などがほとんどなされていない原始的な河川である裏の沢川沿いには豊かな水辺環境があり、北広島市民の憩いの場である「水辺の広場」、あるいはサイクリング専用道路(エルフィンロード)として楽しまれています。

私たちは、BP 構想を否定するものでなく、北広島市や周辺町村の活性化につながるものと期待しています。しかし、BP やそのアクセス道路の建設により、きたひろしま総合運動公園や裏の沢川周辺の北広島市民が誇る自然環境が損なわれることを危惧し、北広島市が示したアクセス道路の当初路線案には反対しました。その後変更された現在の路線について、2019年10月から昨年5月まで4回にわたって北広島市主催によりそれぞれの専門家も交えて「アクセス道路に関する意見交換会」を開催し、意見交換をしてきました。その間、私たちはBP 建設者である貴社と球場を含むBP 自体について意見交換を希望し、「意見交換会」開催以前から、北広島市には再三その仲介をお願いしてきました。そしてようやく2019年10月の第1回「意見交換会」の後に福田様と小川様にお会いすることができました。しかし、その時はご挨拶程度でした。その後も北広島市に貴社との意見交換をお願いしてきましたが、今回ようやく2回目の実現いたします。実りある意見交換を期待して、あらかじめこの文書を差し上げるしだいです。

私たちは、上に述べましたように、きたひろしま総合運動公園・裏の沢川周辺・特別天然記念物野幌原始林・北広島レクリエーションの森などを一帯の自然として捉え、生物多様性や生態系保全にとっては極めて重要な地域と考えています。また、そこにできるBP やそのアクセス道路もその中に含まれる一体のものと考えています。そのことは添付の株式会社ファイターズ スポーツ&エンターテイメントのイメージ図からもお分かりいただけると思います。それらがその周辺の自然に与える影響を私たちは心配しております。特に国の特別天然記念物野幌原始林への影響を危惧します。アクセス道路はその後道道きたひろしま総合運動公園線となり、北海道空知総合振興局札幌建設管理部と2020年5月からいわゆるエコロードをめざして5回の「道道きたひろしま総合運動公園線の整備における環境保全を考える協議会」を重ねてきております。

株式会社ファイターズ スポーツ&エンターテインメントの資料には、「北海道ならではの大自然を満喫できるエリアに、“北海道のシンボル”となる空間を創造する」とありますが、大自然を毀損してしまっても元も子もありません。新球場を含むBPについてはこの地域一帯の自然の生物多様性や生態系にできるだけ悪影響を及ぼさないものであることを期待し、以下の質問・要望をいたします。

1. 国内外のプロ野球球団のホーム球場で新球場のように大自然を満喫できるエリアにあるものはあるのでしょうか。お教えてください。
2. 新球場の設計にあたっては国外の球場も参考にされたと聞いていますが、新球場のように大自然を満喫できるエリアにある球場についても参考にされたのでしょうか。されたのなら、どこの球場か、またどのような視点から参考にされたかお教えてください。
3. 新球場は下記のように周辺の自然への重大な影響が考えられますが、新球場のデザインなどを考える上で、周辺の生物多様性や生態系への影響に関してどのようなコンセプトをお持ちだったのでしょうか。またどのような環境アセスメントを行ったか教えてください。また、その結果もお知らせください。
4. 新球場による周囲の自然への影響をできるだけ避けるために、以前の北広島市による「意見交換会」や北海道による「協議会」のような専門家を交えた「意見交換会」を設立していただき、以下のような具体的な問題について意見交換や検討をしていただきたい。
 - (1) バードストライク防止について
 - (2) バッドストライク防止について
 - (3) 照明による夜行性昆虫の飛来について
 - ①水銀灯・白熱灯・LEDの誘因性の違いの検証
 - ②LEDの波長と昆虫の誘引性についての検証
 - (4) 夜間照明による昼行性昆虫への影響について
 - (5) 球場建物内への昆虫（ガ、トビケラ、コガネムシ、カブトムシ、ガムシ、カメムシなど）の侵入防止について
 - (6) 昆虫を餌とする動物の食物連鎖の攪乱の危険性について
 - (7) 夜間の光により植物の光周性が攪乱され、周囲の樹木の開花時期や紅葉時期の乱れ、草本類の異常な成長、および矮性が懸念されるが、その防止について
 - (8) その他
 - ①不要な音や光は建物外に出さないようにする
 - ②花火の爆音や光など人工的な突発音や突発光により、繁殖期間中の哺乳類や鳥類の営巣放棄などが懸念されるため、繁殖期の花火の打ちあげを自粛する。
 - ③きたひろしま総合運動公園を2重の街路樹の植え込みで囲むなどし、対面の北広島レクリエーションの森や特別天然記念物指定林を含む国有林への騒音と光害の緩和を図る

なお、7月28日のご面談の時に上記の質問・要望についてご説明いたしますが、上記1～4については8月中に文書でご回答ください。また、次回の意見交換会では、植物専門家である札幌市立大名誉教授の矢部和夫氏や北海道自然保護監視員の森下徹氏ほかメンバーに加えていただけるよう強くお願いいたします。

大自然の中のボールパーク (Fighters Sports & Entertainment Co., Ltd. より)

